

兵庫県立芦屋高等学校オープンカレッジジャズ文化と出会おう！
第1回ジャズ文化の歴史Ⅰ

2015.7.18
岡村正史

1 娯楽産業におけるジャズの位置

①世代別お気に入りアーティストランキング

	10代	30代前半	40代前半	50代前半	60代後半
男 性	1 BUMP OF CHICKEN	(A)	(B)	ザンオールスターズ	(B)
	2 (A)	(B)	ザンオールスターズ	小田和正	クラシック・オーケストラ(来日)
	3 YUI	ザンオールスターズ	(A)	(B)	高橋真梨子
	4 RADWIMPS	B'Z	読売ジャイアンツ	松任谷由実	クラシック・オーケストラ(国内)
	5 ELLEGARDEN	宇多田ヒカル	浜田省吾	中島みゆき	中日ドラゴンズ
女 性	1 BUMP OF CHICKEN	(A)	ザンオールスターズ	(C)	(C)
	2 EXILE	平井堅	平井堅	小田和正	(E)
	3 RADWIMPS	DREAMS COME TRUE	(A)	(D)	(D)
	4 ELLEGARDEN	B'Z	コブクロ	コブクロ	ミュージカル
	5 (A)	コブクロ	(C)	(A)	(B)

(出典：「@ぴあ会員」MYアーティスト登録データ、2008年12月31日時点)

A _____ B _____ C _____

D _____ E _____

②音楽ジャンル別興行規模ランキング

	市場規模(億円) ^①	最上位アーティスト	同公演回数(回)	同興行規模(万人) ^②
ポップス	1,182	B'Z	59	74.9
クラシック	258	NHK交響楽団	96	25.3
演歌	67	冰川きよし	102	21.9
ジャズ	25	綾戸智恵	63	13.4

(出典：市場規模に関しては、『2010 ライブ・エンタテインメント調査リポート』による2009年の数字。他は『ぴあライブ・エンタテインメント白書2009』、数字は2008年1月～12月の国内集計。)

① 市場規模 = 動員数 × 平均チケット単価

② 興行規模 = 会場最大収容人数 × 公演回数

2 神戸は日本における「ジャズの発祥地」

1923年(大正12年)5月 井田一郎、宝塚オーケストラを飛び出して日本最初のジャズバンド(ラフティング・スターズ)を神戸で結成…ヴァイオリン、ピアノ、サックス、ドラムスオリエンタル・ホテルなどのダンス・パーティーで演奏。3ヶ月後に解散。

（前史）井田は1910年代後半にアメリカ航路(神戸～横浜～サンフランシスコ)に乗り込んでバンド演奏をしていた。

- 北野～三宮の狭い地域にジャズのライブを聴ける店が集中している(この密度は他にない。)
- ジャズに関係するイベントが多い。主要なものでも7つはある。

神戸ジャズストリート（10月）、神戸ジャズウォーク（5月）など。

- NHK神戸のニュース枠で毎週ジャズのライブを放送している。こんな都市はないはず。

3 アメリカにおけるジャズの歴史

※ ミュージシャンの名の後の（ ）内は担当楽器を表している。 tp（トランペット）、v（ヴォーカル）、cl（クラリネット）、as（アルトサックス）、p（ピアノ）

■ジャズ前史

プラス・バンド（楽器）

ラグタイム（音楽素材）

♪スコット・ジョプリン

■The Entertainer

ブルース（感覚）

■ジャズの誕生

◆ニューオリンズ 歓楽街ストーリーヴィルから「ジャズ」は生まれた（20世紀初め頃）。異説あり。

◆シカゴ 「ジャズ」という言葉が生まれた（1917年頃）。

■ニューオリンズ・ジャズ

最初のジャズレコード・オリジナル・ディキシーランド・ジャズバンド（ニューオリンズ出身の白人バンド）「ディキシー・ジャズバンド・ワンステップ」（1917）

♪ルイ・アームストロング（tp, v 1901~71）

Tiger Rag

■When The Saints Go Marchin' In

◆ニューヨーク

■スイング・ジャズ（1930年代後半全盛）

♪ベニー・グッドマン（cl 1909~86）Sing Sing Sing

※ディキシー、スイングは基本的にダンス音楽。

※ビッグバンドの編制が中心（花形楽器…クラリネット、トロンボーン）アンサンブル重視。

※黒人のリズムを取り入れ、白人がビジネスとして成功させ、大衆の人気を得る。

■ビバップ革命

1940年代 黒人の中から独自の音楽を追求するビバップが誕生。その特徴は猛スピードの即興（アドリブ）にある。一発勝負の緊張感。ジャズはダンス音楽から聴くための音楽へ。

♪チャーリー・パークー（as 1920~55）

Night In Tunisia

■Donna Lee

■ウエストコースト・スタイル

ニューヨーク、黒人主体の熱いビバップに対して、黒人人口の少ないカリフォルニアでは、白人中心の、クラシックの影響も受けたクールなウエストコースト・スタイルが流行。

♪デイブ・ブルーベック（p 1920~2012）

Take Five

ビバップはやがてクールな要素も採り入れ、より洗練されたハード・バップ、いわゆる

モダン・ジャズに発展。最大の立役者のひとりがマイルス・デイヴィス。

♪マイルス・デイヴィス（tp 1926~91）

Stella By Starlight

※ モダン・ジャズはダンス音楽ではなく、鑑賞用音楽を目指した。編制は少人数化（3~6人。花形楽器はサックス、トランペット）。30cm LPが出現し、長いソロが可能になり、テープ録音方式により編集が可能になった。

ソロ重視。実験的要素も強く、ジャズ=モダン・ジャズはいわば芸術化し、大衆的人気を喪失していった。一方、知識人も含めた一部の熱狂的崇拜者を生んでいった。ジャズは準クラシック化していった、と言えるかもしれない。また、前衛的なフリー・ジャズも誕生した。

♪ジョン・コルトレーン (ts 1926~67)

Ogunde

1960年代半ば以降、ビートルズの登場、ロックの隆盛に伴い、ジャズは低迷していった。60年代末から電子楽器をとりいれたフュージョンが登場した。

♪デヴィッド・サンボーン (as 1945~) Chicago Song

1980年代以降

混沌とした状況

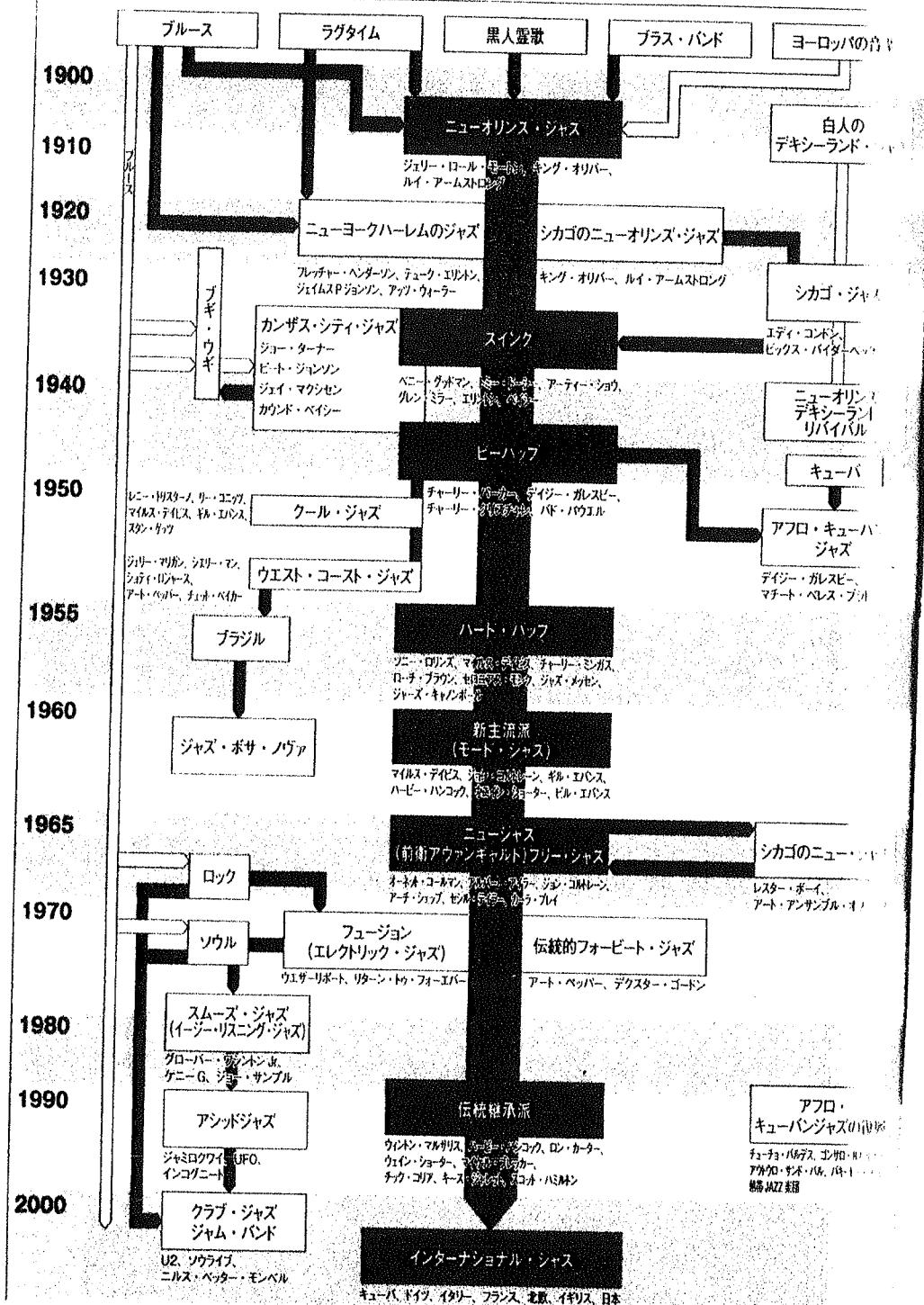
ウイントン・マルサリス (tp 1961~) という存在。

1980年デビュー。2004年ニューヨークに開館したジャズ・アット・リンカーン・センターの芸術監督として演奏だけでなく、ジャズの普及、教育活動にも力を注いでいる。クラシックの演奏家としても有名。マイルス・デイヴィスに批判的。

主要参考文献（雑誌は多数につき省略した）

- 穢吉敏子『ジャズと生きる』岩波新書、1996年
石原慎太郎『狼生きろ豚は死ね』河出書房、1965年
五木寛之『さらばモスクワ愚連隊』講談社、1967年
井上章一『アダルト・ピアノーおじさん、ジャズにいどむ』PHP新書、2004年
岩浪洋三『これがジャズ史だ～その嘘と真実～』朔北社、2008年
内田晃一『日本のジャズ史』スwing・ジャーナル社、1976年
奥成達『宮澤賢治、ジャズに出会う』白水社、2009年
後藤雅洋『ジャズ喫茶、リアルヒストリー』河出書房新社、2008年
瀬川昌久、大谷能生『日本ジャズの誕生』青土社、2009年
マイルス・デイヴィス『マイルス・デイヴィス自叙伝』宝島社文庫、2000年
内藤遊人『はじめてのジャズ』講談社現代新書、1987年
中村とうよう『ポピュラー音楽の世紀』岩波新書、1999年
中山康樹『超ジャズ入門』集英社新書、2001年
中山康樹『現代ジャズ解体新書』廣済堂新書、2014年
南武成（ナム・ムソン）『マンガまるごとジャズ百年史』講談社、2008年
野口久光『ジャズ・ダンディズム』講談社、2012年
ぴあ総研『ぴあライブ・エンタテインメント白書 2009』ぴあ総合研究所、2009年
ぴあ総研『2010 ライブ・エンタテインメント調査リポート』ぴあ総合研究所、2010年
平岡正明『日本ジャズ者伝説』平凡社、2006年
村上春樹『国境の南、太陽の西』講談社文庫、1992年
村上春樹『意味がなければスイングはない』文春文庫、2008年
マイク・モラスキー『戦後日本のジャズ文化』青土社、2005年
マイク・モラスキー「ジャズが流れる昭和三〇年代－音・映像・文字」『文学』2008年3・4月号
マイク・モラスキー『ジャズ喫茶論』筑摩書房、2010年
森正人『大衆音楽史』中公新書、2008年
油井正一『ジャズの歴史物語』アルテス・パブリッシング、2009年
(底本、スwing・ジャーナル社、1972年)

ジャズ史系統図



岩浪洋三『これがジャズ史だ～その嘘と真実～』より

講師プロフィール

岡村正史（おかむら・まさし）1954年三重県生まれ。ほどなく神戸市に移住。1976年同志社大学文学部文化学科文化史学専攻卒業。1980年同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。1980年より兵庫県高校教諭（社会科）。芦屋高校には2009年度～2013年度勤務（本名、岡田正）。2014年定年退職。2002年編著『力道山と日本人』（青弓社）により橋本峰雄賞受賞。2009年『ミネルヴァ日本評伝選 力道山』（ミネルヴァ書房）により兵庫県高等学校教育研究会社会部会研友会賞受賞。2010年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。2014年9月より神戸学院大学人文学部非常勤講師として「歴史文化特別講義」を担当した。近作に「力道山ヒーローと偏見」（『ひとびとの精神史』第二巻『朝鮮の戦争』所収、岩波書店、8月25日刊行）がある。

1997年頃よりジャズヴォーカルを習い、2012年より呉川ウォークブリッジとしての活動を開始。YouTubeにプロモーション・ビデオをアップ中。